



みろく

— MIROKU —

Kambara
Family

No. 12

2019年1月1日発行

常石グループとベトナム難民

「日赤ぬまくま救援センター」の17年間

サイゴン陥落

1975年（昭和50年）4月30日、何年にも及ぶ激しい戦争の末に、ベトナム共和国（南ベトナム）の首都サイゴン（現ホーチミン市）が、ベトナム民主共和国（北ベトナム）に接収されました。これによって、社会主義陣営の北ベトナムが南ベトナムを統合することになったのです。

しかし、この体制変換を嫌う一部の旧南ベトナムの人々は、漁船や運搬船、ヨットなどありとあらゆる小型船で国外への脱出を試みしました。これらの人々が目指すのは、東へ約240km、各国の船が往來する国際航路です。運が良ければ、ここどこかの国の貨物船やタンカーに救助される可能性があったからです。しかし、不運な場合は何か月もの間、飢えと渴きに耐えながら、死と隣り合わせで漂流することになります。海賊に襲われ、最後の財産として隠し持っていた宝石や貴金属、なけなしのドル紙幣、そして命まで奪われて

しまうことだって珍しくありませんでした。

中和丸、難民を救助

1977年、すでにサイゴン陥落から2年以上も過ぎた年の8月19日、ホーチミン市の東方100kmの南シナ海を漂流中の小さな漁船を、日本の南光汽船所属の中和丸（乗組員16人／三井



商船のチャーター／自動車270台を積んでバンコクに向かう途中）が救助しました。

中和丸に救助されたその小型漁船には、お年寄りから子どもまで66人のベトナム難民、いわゆるボートピープルがひしめき合うように乗っていました。到着地のバンコクで旧宗主国であるフランス行きを希望し、そのうちフランス政府の許可が下りた12人を下船させ、残りの54人が中和丸とともに船籍国である日本に向かいました。

常石造船が難民を受け入れ

この人たちをどの収容所で迎えるかは、大きな問題でした。この頃すでに日本では、国連の難民高等弁務官の要請を受けて宗教関係や社会福祉関係をはじめとする各団体が、500人以上の難民を受け入れていました。しかし、これらの施設の収容能力も限界に達しつつありました。

こうした状況の中、まず要請を受けたのは貨物輸送や石油輸

送で南シナ海とも縁の深い、日本の船主協会でした。船主協会が常石造船株式会社にこれを要請すると、常石造船はただちに協力する旨を回答しました。

間を置かずに、日本赤十字社への貸し出しという名目で神勝寺の施設を改修して、60人収容可能な「ベトナム難民収容援護施設 神勝寺修練道場」を開設しました。1977年9月5日のことでした。

ベトナム難民援護事業

神勝寺修練道場について、常石造船が提供したのは施設だけではなく、運営するスタッフ、事務機器、用品、通信関連施設、会社を挙げての地域住民に対する理解促進など、ソフトとハードに関する一切を提供したのです。

開設準備の段階からメインのスタッフとして施設運営を推進し、最終的には所長（施設管理者）として管理業務を終了するまで、実に17年もの間、難民を見守って来たのが黒川愛子さんです。





Socialist Republic of Viet Nam
Ho Chi Minh City (Saigon)



「神勝寺のお茶室をお手伝いしていた関係で、神原比路子さんから『ベトナム難民のお世話をしてほしい』旨のお声をかけていただきました。当時は子育ても一段落した段階でしたので、お引き受けしました。私としては寮母さんのような仕事をイメージしていたのですが、まったく違うものでした。言葉も習慣もまるで違う難民を収容する施設の運営がいかに大変なことが、昨日までの専業主婦にはイメージできなかったのです」

施設のメインスタッフとしての黒川さんの身分は、常石造船ではなく日本赤十字社の社員です。その仕事は、施設運営はもちろん、外部との折衝、心のケア、人生相談、出産、児童の教育関係、日本における生活上の道德周知（しばしばトラブルあり）、その他すべてにわたるものだったようです。

みろくの里の子どもたち

「第1次入所から最終の第47次入所まで、延べ1001人がこの施設で生活し、やがて新しい世界に旅立っていきました。この中には、たくさん子どもたちも含まれていました。幸いなことに、親御さんと離れ離れになって孤児となった子はいませんでした。しかし、

小さなボートで海を漂い、見知らぬ土地で生活せざるを得ない子どもたちです。その心のケアにはとても気を遣いました」（黒川さん）
施設にいる子どもたちは、ベトナムを脱出してきた子ばかりではありません。難民となった妊娠中の母親が、日本で、しかも沼隈で出産した子どもたちも含まれています。施設収容中に生まれた子どもの数は27人。異国で出産する母親の不安を和らげようと、黒川さんは妊婦に寄り添い、手を優しく握り「ネンリー、ネンリー」（心の休まる言葉）とささやき続けてあげたのです。

無邪気な、そして悲しき歌声

「子どもたちとのエピソードは他にもたくさんあり、そのどれもが深い印象として心に刻まれています」と黒川さん。

「ある時、施設の階段で小さな子が可愛い声で歌を歌っていました。ベトナムの童謡でも歌っているのかな、と聞き入ると、その歌詞は『サイゴン チェンジ ホーチミン』というものでした。サイゴンという南ベトナムの首都は、ホーチミンという新しい名の都市に変わった、という歌詞です。歌っている子は、それが原因で遠い異国で不自由な生活をしていることを知らないのだと思います。歌声

が無邪気な分だけ、とても切ない思いに駆られたものでした」

希望の国はアメリカ

行く先（受け入れ国）が決まると、難民は施設を退所していきます。彼らの向かう国はノルウェー、ドイツ、フランス、イギリスなどさまざまでしたが、難民の大半はアメリカ行きを希望していました。旧南ベトナムとアメリカの関係はとても深いものだったからです。

審査をパスできた人はとても喜び、希望に満ちた顔で晴れ晴れと施設を去っていきました。しかし、受け入れを拒まれた人たちの落胆は大きく、ごく稀ですが自暴自棄になり施設職員の指導に従わないこともありました。

「そんな時は、静かに説得するより他ありません。手に職をつけて日本に定住する道は、いくらでもあるのです。そうした時に役立ったのは、常石造船をはじめ地域の企業が、アルバイトですが彼らに仕事を提供してくれていたことです。仕事を通して日本人と接触したことは、やがて日本に定住することになる彼らに自信のようなものを植えつけてくれたのだと思います」（黒川さん）

難民に寄り添った17年の歳月

「みろくの里神勝寺研修道場」

の難民収容施設、正式名称「日赤ぬまぐま救援センター」は、1977年から1994年の17年間にわたって活動し続けました。47次、延べ1001人のベトナム難民を迎え、そして送り出したのです。

この施設は所長（施設管理者）以下、4人の職員と1人の通訳によって管理運営され続けました。その仕事は、食事、医療、助産、学習指導、希望国定住の申請手続きの補助、カウンセリング、入退所の引率、日常生活の世話、難民自治組織の結成と運営など、実にさまざまなものでした。

異国からのエメール

「今でも時々エメールが届きます。ノルウェー、フランス、アメリカ、ドイツ、イギリスなど国はさまざまですが、どれも元難民だった人々からのものです。封を開くと、あの頃のことを昨日のことのように思い出されます。

「昨年のことですが、アメリカに行った人たちが家族を連れて団体で日本観光にきました。東京でのパーティーに招待されましたが、都合がつかず欠席しました。すると後日、たくさんさんの写真を送ってくれたのです。そこには懐かしい顔とともに、彼女らのお子さんの笑顔が。みんな幸せそうでした」（黒川さん）

常石グループとベトナム難民

「日赤ぬまぐま救援センター」の17年間

ぶらり訪問！

神原家ゆかりの地

神原家に関係の深い場所を訪ね歩く新コーナー。
常石周辺には、数多くの歴史的建造物があります。
皆さんが普段見慣れている建物や場所に、
神原家と強いつながりがあるものも存在するのです。
皆さんが何気なく素通りしていた、
あの建物や場所が登場するかもしれませんよ。

Hodenin

ぶらり訪問、「宝田院」 政子と比路子の生まれ故郷

常石というところ

沼隈町史には、
「海岸に四個の大石あり、こ
の地古来より『常石』または『連
石』といわれる。」
との記録が残されています。この
記述が広島県福山市沼隈町常石
という地名の由来であることに、
ほぼ間違いないと思われます。

また、百人一首でも有名な
伊勢大輔の歌集には、
**秋は霧 春は霞にたちまじり
塩やく煙 つねしとぞおもふ**
という一首が残され
ているといえます。

この二つの事実か
ら、平安、あるい
はさらに古い時代か
ら、沼隈半島の海
岸沿いの村(当時)は
「常石」という地名

であったことが理解できるのでは
ないでしょうか。

そんな常石の地理的な特徴は、
東から瀬の浦、阿伏兎の瀬戸、
田島、横島、百島などの岬や島々
を自然の堤防とする、極めて波
静かな海沿いの地であった(今で
もという点です。したがって、古
くから漁業、海運業、また狭い
ながらも農地もある平和な瀬戸
内の集落だったことが伺えます。

無量山宝田院の歴史

そんな常石の旧海岸沿いに伽
藍を構える無量山
宝田院の開山(お寺
を開創した僧侶／
初代住職)は、浄
土真宗の宗祖であ
る親鸞聖人の教え
を授けられた人。
源頼朝の菩提寺で



ある相州鎌倉の最宝寺の住職で
あり、関東六老僧の一人(筆頭)
に数えられる、西国念仏弘通開
祖・明光上人です。

諸説ありますが、この明光上
人は清和源氏の血脈に通じる、
しかも鎌倉幕府を開いた源頼
朝に非常に近い源氏の系統の
人(源義朝の妹の子ども／頼
朝とは従兄弟関係)だったとい
います。

そんな明光上人が関東より
海路をたどり備後の山南にお
いでになり、ここに光照寺を
建立して浄土真宗の布教に
努めました。晩年には息子の
良誓を連れて山南市場に自ら
の院号を冠した「法伝院(法
を伝える院／寺)」を建立し
て隠居しました。「法伝院」が
「法伝寺」ではなく「院」の
字を用いているのは、明光上

人隠居の寺ゆえに、だそうです。
法伝院は、鎌倉、室町、安
土桃山と時代を経るうちに幾度
かの伽藍焼失を経験しながらも、
十五世教念の代となった慶長7年
(1602年)、現在地である
千年村の常石にお寺を移しまし
た。また、この頃まで寺号は「法
伝院」とされていましたが、この
後、現在の「宝田院」と文字が
変わり、常石の地にしっかりと根
を下ろすことになりました。



神原家と宝田院のご縁

ツネイシホールディングス、常石造船、神原汽船をはじめとする常石グループの祖として明治、大正、昭和の時代を生きた神原勝太郎は、厚い信仰心を持った宝田院の主な檀家の一人でした。その付き合いはお寺と檀家という関係を越えて、当時の第二十七

世三須明秀住職とは、ともに千年村の将来を語り合う同志のような関係でした。また、勝太郎の長男として海運、造船事業を飛躍的に発展させた神原秀夫も、勝太郎に負けず劣らず宝田院を厚く庇護した檀家でした。そうした関係からだと考えられますが、

昭和16年に戦地から帰還した神原秀夫の縁談の相手に選ばれたのは、二十七世三須明秀住職の姉であり、すでに福山・大門の紫雲山光円寺に嫁いでいた政子さんの次女である比路子でした。この点でも非常に濃密な関係であったことが伺えます。さて、時間を鎌倉時代に巻き戻して思い出していただきたいのは、宝田院の祖である明光上人の出自です。明光上人は清和源氏の人です。清和源氏をさらにさかのぼると、最終的に藤原鎌足にたどり着きます。藤原鎌足は、中大兄皇子とともに蘇我馬子を討った大化の改新の立役者です。宝田院は、開山の明光上人の血を引く人々によって、二十九代にわたって歴史を受け継いできた寺院です。その宝田院の娘として生まれ、光円寺に嫁いだ政子さん。そし

て、その娘である比路子。この二人も、開山明光上人の血を受け継いでいる人であることは間違いないありません。

何だか話がややこしくなりましたが、簡単にいうと宝田院と現在の神原家は、比路子を通じて親戚関係にあるのです。つまり、神原家には源頼朝に近い清和源

宝田院の見どころ

・本堂正面に掲げられた院号「無量山」は、書家としての神原秀夫の筆によるもの。
・本堂前に据えられた二つの燈籠は、神原比路子の寄進によるもの。

宝田院の県重要文化財

・一流相承知絵系図……備後山南教団における念仏の相承と入信者を肖像画で記入することによって示したもの。
・明光本尊(絹本着色)……釈迦、弥陀二尊や高僧、聖徳太子とその侍臣、先徳などが描かれた絵画。

氏の血が、もつとさかのばれば藤原鎌足の血が流れているということなのです。

おそらく誰も自覚していない、どんな文献にも残されていない遠い遠い祖先の記憶。たまには宝田院をお訪ねして、遠い遠い祖先に思いを巡らせるのも楽しいことなのではないでしょうか。

ぶらり訪問「光円寺」

く神原家の3人のお兄さんく

福山市大門町

福山市の東南に位置する大門町は、今でこそ内陸の町という印象です。しかし、その昔、とい

てもほんの50年くらい前までは、波静かな内海(大門湾)に臨んだ海辺の集落でした。

「大門」という何やら由緒ありげな地名は、この海に二つの島が



浮かんでいたことに由来するといえます。この二つの島は湾の入口の左右にあり、それがあたかも門柱のように並んでいるように見えたことから「大門」という名に

なっただけのことです。

これから紹介する紫雲山光円寺は、そんな大門町の高台に位置しています。そしてこのお寺は、京都の東本願寺と固い絆で結ばれた由緒あるお寺でもあります。

その山門からは、かつての波静かな大門湾をイメージすることはできません。それでも耳を澄ますと遠い昔の潮騒の音が、目を閉じれば歴史に残る石山合戦に



奮闘した僧侶の物語が、絵巻のように浮かび上がるかもしれません。落城、本願寺、織田信長、毛利水軍、西国門徒などの事柄は、光円寺とどのようなつながりがあるのでしょうか。

大河ドラマ 紫雲山光円寺

備後大門の揚知山城あけちやまじょうが、笠岡の軍勢に攻め落とされたのは、弘治2年（1556年）のことでした。城主の河

野光重は、城を落ち延びる途中に討ち取られ、ゆかりのある人々も散り散りとなって各地に落ち延びていきました。

光重の嫡男だった河野光円も落ち延びた一人でした。当初は自家の再興と揚知山城の奪還を思いましたが、死んでいった人々への弔いの思いが強く、ほどなく出家して、その名も「立円」と改めた。大坂（当時）の本願寺に赴きました。ここで頭如上人の弟子となって修行に励んだのです。

その頃、本願寺は10年にも及ぶ織田信長との戦い（石山合戦）の最中でした。僧侶になったとはいえ、もとは武士（河野光円）だった立円は、この戦いで数万にも及ぶ織田軍をよく防ぐとともに、

揚知山城再興のための隠し資金のすべてを出し尽くして本願寺を助けました。また、城内（本願寺）の兵糧が尽きかけた時は、城を抜け出し各地を駆け巡って門徒に働きかけて兵糧を集めました。

さらに、教如上人（頭如上人の跡継ぎ／東本願寺創立者）からの依頼によって小早川家から兵糧二万石を借り受け、毛利水軍や瀬戸内御門との協力によって瀬戸内海沿いを大坂まで運び、見事本願寺内に運び入れることに成功するなど、軍事、経済、運輸のすべてにわたって、本願寺側として石山合戦に歴史的な功績を残しました。

教如上人は立円の功績に深く感謝し、自らの名前から「教」の文字をお授けになりました。これ以後、立円は「教円」と改名し、さらに世襲として代々の住職に「教」の文字を使用することが許されました。そして一つ、上人の紋所である由緒ある「八つ藤」の紋章を未来永劫使用することも許されたのです。

これらを記録した文献は明治8年頃までは残されていました。その年の大火によってすべて焼失してしまいました。

光円寺と 神原家のつながり

光円寺と神原家の関係を一言でいえば、「かなり近い親戚」ということになります。説明すると、

二代前の住職の次女として光円寺に生まれた河野比路子は、高等女学校研究科に在籍していた18歳の時に、戦場から帰ったばかりの神原秀夫（25歳）に嫁いだのです（昭和16年）。比路子の母親（二代前の住職の妻）は、常石の宝田院から出た政子さんです。結婚して姓を神原と改めた比路子は、眞人、治、総一郎の3人の息子に恵まれました。

その比路子の弟に当たるのが、光円寺の先代住職・河野教照上人です。現住職・河野教明上人は、この河野教照上人の長男です。つまり、眞人、治、総一郎の3人と現住職・河野教明上人は、従兄弟同士の関係に当たるのです。また、政子さんは眞人たち兄弟の母方の祖母に



当たります。

「子どもの頃、常石の神原家を訪ねるのが何よりの楽しみでした。神原家の3人の兄弟は、私にとつてはとても優しい、いところのお兄さんでした。小さな私を『坊』と呼んで、チャンバラごっこやミニカー遊びなどをしてくれました。神原の家では何もかも楽しくてまだまだ遊び足りない」と、帰りにはいつもぐずったものでした」とは、住職・河野教明上人の言葉です。

明治8年、光円寺は火災に遭い、東本願寺ゆかりの宝物や書物など一切を焼失しました。それでも境内には元禄様式の庭園が修復・造成されています。これは現在ではまれに見る庭園様式で、特に芸術性に富む重要な文化財と評価されています。ぜひ、鑑賞してください。

第5世代
リレー
エッセイ
Vol.2



今『サッカー』に夢中です!

第5世代の方に、**イサラウタケン 彬宏さん**
自分が「今」

好きなものを自由に紹介してもらいます。



>>> akihiro

ぼくが今ハマっていることは、サッカーです。ぼくのポジションはゴールキーパーです。試合でシュートをとめると、とても嬉しいです。



>>>

ぼくはプロになるために、所属しているチームでの練習の他に、ツネイシ バイエルのゴールキーパーコースで、前日本代表のゴールキーパーだったコーチに教わっています。

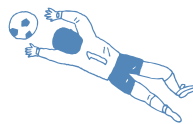
>>>

毎週火曜日以外は、チームでの練習や試合があります。試合で、遠いところでは大阪遠征など、ぼくは毎日サッカーを頑張っています。



>>>

すごいシュートを止められたり、みんなから頼りにされるゴールキーパーになるために、これからも練習を頑張ります。



>>>

あと、海外で活躍できるよう、英語の勉強も頑張っています。



>>> 次回は、
神原 一輝さんに
リレーします。
お楽しみに!



もつと英語を 学びたい

神原 さくらさん



私は二週間イギリスのBEDE'Sというサマースクールに参加させてもらいました。BEDE'Sは五年生の時にも参加させてもらったことがあって、今回が2回目でした。今回もたくさんこのことを学び、たくさんさんの思い出を作ることができました。

ルームメイトは、中国・ドイツ・ロシアの人でした。みんな私が英語が分からなくても優しくゆっくり会話してくれたり、ジェスチャーなどで教えてくれました。前回は人間関係でもめたこともあったけれど、今回はそんなことは一切なく本当に楽しい時間を過ごしました。

私は一日に一回ある休み時間が毎日の楽しみで、みなさんのお菓子パーティーをしたりしました。ほかの国のお菓子を食べてみたり、日本のお菓子を外国の子にあげたり。しかし、そのおかげで太りました。良い思い出になったので良しとおきます。

今回のサマースクールで一番感じたことは、英語はやっぱりできた方が何十倍も得ることがあるということです。伝えたいことを伝えることができます。私はもつと英語を勉強して外国人と交流していきたいです。またぜひサマースクールに参加したいと思いました。

Sakura & Sayuri

サマースクールの思い出

外国人と会話を 続けたい

神原 小百合さん



私は、昨年イギリスのBEDE'S SUMMER SCHOOLに行かせていただきました。

学校の第1印象は、自然が多かった事です。今まで2回旅行でイギリスに行つたので、自然がたくさんあるという事は知っていましたが、今回行かせてもらつて、これほど自然がたくさんあるとは思いませんでした。

そして、勉強では、むずかしいことばかりと思つていましたが、そこまでむずかしくなく、分からなかったら、友達などに聞いたりしました。アクティビティは卓球が楽しかったです。何回も負けてしまつたけれど、おもしろかったです。友達、先生、スタッフの人、みんなとても親切にしてくれました。今回行かせていただき、外国人の友達と交流がとて増えました。次は会話がもつとつづいていったらいいなと思いました。このような経験を忘れず、英語を勉強したいと思います。本当にありがとうございました。



United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

成人おめでとうございいます

夢を探しています

神原 祐利さん



まず、二十歳を迎えることができたのは、たくさん母と優しい父に育ててもらつたおかげです。この場で感謝を述べさせていただきます。ありがとうございます。

私は今、夢を探しています。将来自分がしたいことが何なのか、まだはつきりとしていません。正直、二十歳になればもつと大人になれると思つていました。現実はあるに甘くないですね。

2019年からは大学の校舎も都心になります。今まで以上に、舞台や照明、社会や美術、そして自分の好きなものにたくさん触れて、自分のやりたいことを見つけて行きたいと思っています。PS・二十歳の誕生日プレゼントお待ちしております！



母より

ゆうりちゃん。

20歳、心からおめでとうございいます。大きなけがや病気もなく、よく健やかに育ってくれました。

20年だから特別なわけではないんです。母にとってはあなたたちとの時間はすべて、かけがえのない大切な時間です。今は離れて暮らしているけれど、いつも祈り、愛しています。大丈夫、現実には甘くないから彩り豊かな人生になるんです。生まれてきてくれて、本当にありがとう。学業や仕事よりも、健やかで元気に過ごしてくださいね。

楽しかった仙台旅行

8月20日〜21日、第5世代が自分たちで計画し、仙台に旅行しました。参加したのは、健人さん、悠人さん、一輝さん、明果さん、祐利さん、千琴さん、和人さん、嗣夢さんの8人です。一番の目的は「牛タンを食べたい！」でした。他にも、ずんだ餅、冷やし中華、ずんだシエイクも味わいました。



また、伊達政宗ゆかりの瑞鳳殿や仙台城を見学しました。移動手段はレンタル自転車でしたが、「電動の自転車でも坂がめっちゃくちゃ長くてキツかったけど、景色はすごかったのと馬の像の写真をそこで撮った」との感想も。

サブライズで悠人さんの誕生日パーティーも行いました。仙台駅に隣接するホテルメトロポリタン仙台に宿泊し、1泊2日を一緒に過ごして、いっそう仲良くなって帰ってきました。



アンパンマンミュージアムへ！

神原 明果さん

仙台旅行ではなんと、アンパンマンミュージアムにも行ってきました！小さい頃、父と母に四国のアンパンマンミュージアムに連れて行ってもらったことがあり、私にとって思い出の場所なんです。なので仙台まで行つてアンパンマンミュージアムなんだと思われるかもしれませんが、逆に、仙台まで来ないと絶対行かない場所です（笑）！あゝ楽しかった〜。



食べ物すべてが美味しかった！

神原 祐利さん

初めて訪れた仙台はすごく暑かったけれど、不思議と息苦しさはなく、思っていたよりも都会で、とにかく食べる物すべてが美味しかったです。企画してくれたたけちゃん、下の子の面倒を見てくれたかずと兄ちゃんとはるか姉ちゃんに甘えて、仙台を満喫させてもらいました。時間に縛られず、のんびりとした旅行は、すごくいいリフレッシュになりました。次は北海道に行きたいなあ…（笑）。



ファミリー総会2019を下記の通り予定しています。

開催日：2019年3月30日(土)

開催場所：神勝寺

開催時間：15:00～

